

資料35-1

科学技術・学術審議会  
研究計画・評価分科会  
宇宙開発利用部会  
ISS・国際宇宙探査小委員会  
(第35回)

# 国際宇宙探査及びISSを含む地球低軌道を巡る 最近の動向

2020年2月18日

文部科学省研究開発局

宇宙開発利用課 宇宙利用推進室



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 2021年度 NASA予算要求 (2020年2月10日発表)

本頁の一部情報は、連邦政府予算要求発表と同時にNASAが発表した「NASA予算Fact Sheet」から引用

2021年度 NASA予算要求額 : **約252億ドル** (2020年度 要求額比 : +20%、承認額比 : +12%)

## <NASA全体の予算に関するポイント>

- ◆ **「Moon to Mars」を強く掲げ、2024年月着陸や、その後の持続的な月面活動の構築を最優先事項に位置付け。**
- ◆ 2025年度まで漸増の計画 (272億ドル(FY2022), 286億ドル(FY2023), 281億ドル(FY2024), 263億ドル(FY2025))
- ◆ 赤外線天文衛星(WFIRST)、地球観測ミッション(PACE, CLARREO-PF)、STEM教育の予算はゼロ要求。

## <月・火星探査関連及びISS関連のポイント>

- ◆ **月・火星探査関連**として、**123.7億ドル**を要求。 (2020年度承認額 : 88.2億ドル)

(主な内訳)

○ SLS/Orion開発関連	40.4億ドル	(45.8億ドル)
○ 有人月着陸システム	33.7億ドル	(新規)
○ Gateway	7.4億ドル	
○ 月面活動に係る技術開発	2.1億ドル	
○ 火星無人探査(有人探査の先行ミッション)	2.3億ドル	

- ◆ 次期打上げロケット(SLS)については、昨年度の予算要求に引き続き、初期バージョンの開発に注力。(改良型への予算は先送り)

- ◆ **ISS関連**として、**41.9億ドル**を要求。(2020年度承認額 : 41.4億ドル)

(主な内訳)

○ ISS	14.0億ドル
○ 宇宙輸送	18.8億ドル
○ 商業LEO開発	1.5億ドル

上記は大統領府からの予算要求。最終的な予算決定権限は議会にあり、議会が決める予算額は、要求額とは異なる可能性がある。(ゼロ要求が復活する可能性も有り)